

## メキシコ、実体経済と対照的な動きが続いたペソ相場に変化の兆し

～米バイデン政権による関係改善、景気回復期待が先行も、新型コロナの状況や格下げリスクを意識か～

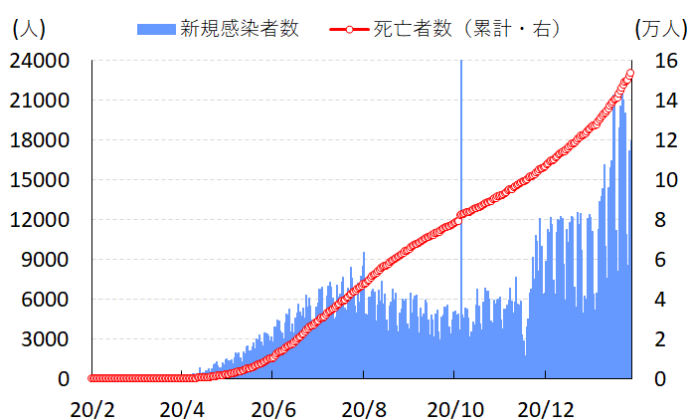
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

### (要旨)

- メキシコでは昨春、新型コロナウイルスのパンデミックを受けた米国での感染拡大に伴い同国でも感染が拡大し、政府は都市封鎖に舵を切った。しかし、景気に深刻な悪影響が出たため、政府は感染収束にほど遠いにも拘らず都市封鎖を解除して経済活動を再開させたが、昨秋以降は「第2波」が直撃する厳しい状況にある。都市部では医療ひっ迫が懸念されるなか、政府は医療従事者へのワクチン接種を開始し、政府は地方部の高齢層への接種を進める計画だが、調達の行方は不透明であるなど見通しの立たない状況にある。
- 実体経済は経済活動の再開に伴い企業マインドは底打ちしたが、足下では感染再拡大の影響で下押しされるなど景気の足踏みが懸念される動きがみられる。他方、国際金融市場の活況に加え、米国でのバイデン政権誕生による関係改善期待や米国景気回復期待を受けて資金流入が活発化し、ペソ相場は上昇傾向を強めてきた。しかし、足下では新型コロナウイルスの感染状況への懸念が上値を抑える動きもみられる。実体経済の動きに加え、格下げ懸念もくすぶるなか、ペソ相場を取り巻く状況悪化リスクに留意が必要である。

メキシコでは昨春、新型コロナウイルス (SARS-CoV-19) のパンデミック (世界的大流行) を受けて隣国の米国において感染が急拡大したことを受けて、同国においても感染が拡大する動きが広がり、政府は公衆衛生上の非常事態宣言の発令に踏み切りとともに、必要不可欠な業務以外の企業活動を停止する都市封鎖 (ロックダウン) の実施など強力な感染封じ込め策に舵を切った。ここ数年のメキシコ経済を巡っては、米国のトランプ前政権による様々な『圧力』の影響に加え、世界経済が減速感を強めるなかで主要な輸出財である原油価格が低調な推移をみせたことも重なり、減速傾向を強める展開が続いてきた。こうしたなか、新型コロナウイルスのパンデミックを受けた世界経済、なかでも輸出の大宗を占める米国経済の急減速の余波に加え、都市封鎖に伴う経済活動の低迷も重なり、昨年前半の同国景気は過去に類をみないペースで下振れする事態に直面した。なお、その後は感染収束にほど遠い状況が続いたにも拘らず、景気の深刻な減速を理由に政府は6月以降

図1 新型コロナの新規感染者・死亡者(累計)の推移



(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

に都市封鎖措置を段階的に解除して経済活動の再開に動くなど、景気を重視する姿勢が前面に打ち出された。ただし、昨秋にかけて新規感染者数は徐々に頭打ちする動きがみられたものの、隣国の米国など

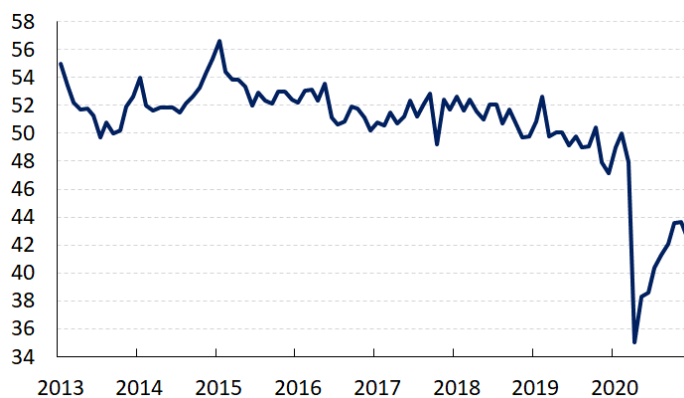
で昨年末にかけて感染が再拡大する『第2波』が直撃したことを受けて、同国においても新規感染者数が急拡大しているほか、死亡者数も拡大するなど状況は厳しさを増している。足下における累計の感染者数は180万人に留まるものの、死亡者数は15万人を上回るなど世界で4番目に多く、感染者数に対する死亡者数の割合が高いなど、都市部を中心に医療ひっ迫が懸念される事態となっている。こうした状況にも拘らず、政府は全国規模での都市封鎖の再強化の実施に消極的な姿勢を続けており、一部の州での部分的な規制強化の動きに留まるなど、感染収束の見通しが立たない状況にある。さらに、今月24日にはマスクの着用に批判的な姿勢を示してきたロペス＝オブラドール大統領が新型コロナウイルスの陽性であることが確認されるなど、感染拡大の動きが政府中枢にも及んでいる。同大統領は心臓疾患や高血圧などの既往歴を有するも、現時点において症状は軽微に留まっているとされるなど最悪の事態は避けられている。他方、同国では先月末から医療従事者を対象に米国製ワクチンの接種が開始されており、政府は今年3月末までに地方部を中心とする高齢者に対するワクチン接種を完了させるとの計画を掲げるが、医療インフラが脆弱な地方部においてこの計画を実現するのは極めて困難と見込まれる。ワクチンの調達を巡っては、中国製ワクチンのほか、ロシア製ワクチンも大量に調達する方針が示されるなど積極的な動きがみられるものの、スケジュールが遅れれば感染収束のタイミングが後ズレするなど事態が一段と悪化する懸念もあるなど予断を許さない状況にある。

実体経済を巡っても、新型コロナウイルスのパンデミックを受けた都市封鎖措置の影響により、昨春に企業マインドは大きく下振れする事態となったものの、その後は都市封鎖の解除に伴う経済活動の再開を反映して底入れする動きがみられた。ただし、昨年末にかけては輸出の大宗を占める米国での感染再拡大による行動制限の再強化の動き

を受けた景気減速懸念に加え、同国においても感染が再拡大するなど経済活動に悪影響が出ており、頭打ちの様相をみせるなど景気回復の足取りは極めて重い展開が続いていると考えられる。さらに、足下においては上述のように新型コロナウイルスを巡る状況が一段と悪化しており、企業マインドにも下押し圧力が掛かっている可能性もあるなど、景気は足踏み状態となっているとみられる。他方、国際金融市場で

は全世界的な金融緩和を背景に『カネ余り』の様相を一段と強め活況を呈する動きがみられるなか、米国でのバイデン大統領の就任を受けてトランプ前政権下で強化された移民政策の転換が図られるなど、両国関係が改善するとの期待を受けて資金流入が活発化する動きがみられる。さらに、米議会では上下院双方で民主党が多数派を占めるなど『トリプル・ブルー』となったほか、バイデン政権は財政出動を通じた景気下支えの動きを強化する姿勢をみせるなか、先行きの米国景気の回復期待が強まり、輸出の大宗を米国向けが占めるメキシコ経済に好影響が及ぶとの見方も資金流入の追い風になっている。こうしたこと状況も追い風に通貨ペソ相場は上昇傾向を強める展開が続いてきたものの、足下においてはロ

図2 製造業 PMI の推移



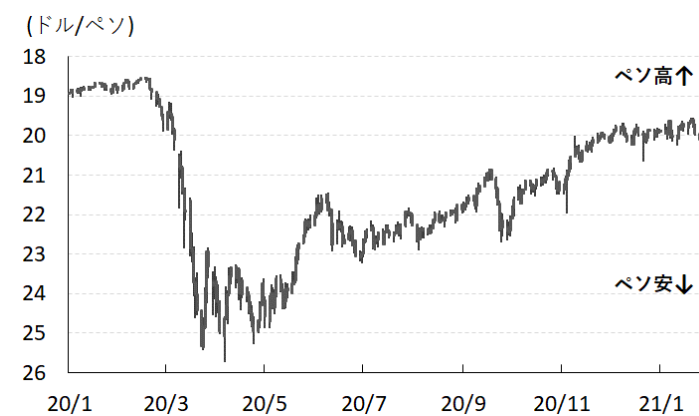
(出所)IHS Markit より第一生命経済研究所作成

ペス＝オブラドール大統領の感染が確認されるなど、同国における新型コロナウイルスを巡る状況の厳しさが改めて認識されたことで上値が抑えられている。なお、米国におけるバイデン政権の誕生は、移民政策などの面では両国関係にプラスとなることが期待される一方、同政権が掲げる環境重視の姿勢は経済及び財政面で石油関連セクターに対する依存度が高いメキシコ経済に少なからず悪影響を与える可能性もあるなどその影響を注視する必要性は高い。また、

政府による巨額の財政出動を通じた景気下支え策を受けて財政状況は急速に悪化しており、今年の経済成長率は昨年大きく落ち込んだ反動で上振れすると見込まれる。しかしながら、足下の景気回復は力強さを欠く展開が続いている上、財政出動の余地が限られるなかでは上振れの度合いが乏しいものとなる可能性が高い。主要格付機関は国営石油公社の財務悪化や景気回復の弱さを先行きの格下げリスクに挙げていることを勘案すれば、将来的な格下げの可能性は高いと見込まれるなど、投資家マインドへの悪影響も懸念される。新型コロナウイルスの感染状況に対する見通しも立たないなか、先行きはメキシコ・ペソ相場を取り巻く状況が悪化する可能性に留意する必要も出て来よう。

以 上

図3 ペソ相場(対ドル)の推移



(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。